



まる ○福連携2023

一般社団法人福祉システム北海道

高橋 銀司代表理事

異業種との対話から福祉を探る

◇はじめに◇

介護・福祉分野以外の「異業種」との対話から得た学びや気付きをお届けする定期連載「○(まる)福連携」が4年目を迎えました。これまでたくさんのゲストの方にお世話になる

とともに、読者の方からの反響もあり、改めて感謝申し上げます。今回の連載は全7回、キャリアコンサルタント、民謡歌手、webイラストレーター、ダンス講師、町長、落語家、ゴスペルピアニストの方々とお話しさせていただきました。今年もその業種にある福祉を探り、学んでいきたいと思っております。

ンサルタントとして「福祉」を感じることはありますか？

大学に社会福祉学科があり、福祉系の学生の就職支援に関わっている以上、常に業界の内容を頭に入れているので、常に身近に感じています。

福祉系の学生に限らず、意外と福祉の仕事に目を向けている学生もいます。やりたいことが分からないということもありますし、家庭環境もあります。おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活していると、介護の問題なども身近です。学生自身もなんらかのハンディキャップがある方もいます。学生にハンディキャップについて話されても驚かないです。

●企業に行くこともありますか？

大学のキャリア支援センター職員としてですが、企業訪問や求人をお願いすることもあります。福祉施設や介護関係の会社に行くことが多いので、バリアフリーが当たり前ですね。一般企業に行くこともありますが、車いすだと「ここはどうやってあがるんだろう」とか、エレベーターの大きさや、障がい者用のお手洗いでも角度がすごく急なところなどは「これはすっと入れるのかな」と気になったりします。

❖エピソード1 キャリアコンサルタント 柴田祐介さん



しばた・ゆうすけ 1984年、札幌市出身。札幌国際大卒業後、福祉系資格取得支援学校に入職し、約3000人に対して就職支援を実施。2011年にCDA(キャリアデベロップメントアドバイザー)を取得後、2017年にキャリアコンサルタント(国家資格)登録。現在は星槎道都大に勤務し、若年層の就職支援に従事している。

の求人票は配属先がどこでもあり得る書き方なのですが、営業だと思ったら事務だったとか、配属先が希望と全然違うということはあります。

●キャリアコンサルタントはどのような仕事ですか？

本当に簡単に言うと、求職者や労働者の方に職業選択や将来の職業設計に関するアドバイスや相談を行う仕事です。

●対象の方はさまざまですか？

そうですね。今は大学に勤めていますので、大学生をメインに支援しています。しかし、前職では少し違う仕事でしたが、50代から60代ぐらいまでの方を相手にしていました。

●ちなみに、前職ではどんな方を対象にしていたのですか？

所属している勤務先によりますが、前職は資格を取得する学校、職業訓練を行う学校にいたので、離職者を対象に支援していました。

●離職者に次の仕事を探すということは、一緒に本人のやりたいことを考えていくといったイメージでしょうか？

理想は、本人のやりたいことを一緒に考えていくことになります。なので、こちらからこういう求人がありました、ここに行ってください、というわけではなくて、本当にやりたい仕事のアドバイスをすることになりますね。今も同じです。

●離職者の方々が前の仕事を辞める理由に特徴はありますか？

本当にいろいろな理由がありますが、多いのは「手に職をつけたい」でした。手に職をつけたら働き口が増えるという人が多いです。

●経験が11年と長く、今も活躍中の柴田さん自身がキャリアコンサルタントを目指したきっかけは何ですか？

私自身が就職活動に失敗したというか、あまり活動を熱心にせず就職した会社を直ぐに辞めてしまった経緯があり、就職活動は大事だということをお伝えしたいのが一番の発端です。

就職活動って言わば結果論なので、就職して良い会社に入れば成功ではなく、本当に1年、2年、3年後に「この選択は間違っていなかった」と思えば成功という方が多い。その面では失敗だったなと思いました。大学までずっと野球をしていたので、やりたいことが本当になかったのです。就職して営業に配属されると思っていたら、全然違う部署に配属されました。

先輩で人材関係の仕事をしている方との出会いも大きかったです。先輩の仕事の内容を聞いて、初めて「こんな仕事があるんだ」と思いました。

●今までの求人ですら「話がちがう」と思うような代表例はありますか？ お給料でしょうか？ 給料というよりは、職種だと思います。会社

●普段の仕事をするうえで、大切にしていることは何ですか？

決して強要をしない、ということは本当に心がけています。大学生で、初めて社会人になる人たちの支援ということを考えると、「答えは自分の中にある」のが最低限のことです。企業の人事の方も「最終的には本人(学生)が決めてね」と話しています。

●失敗談はありますか？

たくさんあります。前職で50代の女性の方の就職面談の際に、資格を取ったばかりの頃ですが、相談の途中で急にその方が「帰ります」と言い出しました。どうしたのか聞いたら「質問されすぎて、尋問みたいで気分が悪いです」と言われました。いま振り返ると、質問に対する答えに対して「それはなぜですか？」と繰り返し、自分でも聞きすぎたとは思いますが、もう少しで何かを見つけてくれるかもしれないと思って深掘りし過ぎていました。

それからは、相手の心境に気を付けて、話を聞きに来ているのか、考えを聞いてもらいに来ているのか、などをすぐに判断して支援するようにしています。

●この企画のメインテーマですが、キャリアコ



◎インタビュー◎

たかはし・ぎんじ 1987年、小清水町出身。北海道介護福祉学校や北海道医療大卒業後、障害福祉事業所に勤務の傍ら、北星学園大大学院社会福祉学専攻修士課程修了。オホーツク社会福祉専門学校専任教員を経て、現在、日本医療大総合福祉学部助教およびEzo'n music提携ジャーナリスト(NPO経営・福祉系)としても活動。社会福祉士、介護福祉士。

日本医療大 Ezo'n music



「○(まる)福連携プラス」YouTube配信中

インタビューの様子などを視聴できる動画チャンネル「○(まる)福連携プラス」がYouTubeで配信中。紙面に掲載し切れなかった内容を含め10分ほどにまとめている。

○福連携プラス

